

考える 理解する 伝える

第9回子どもオペラ学校成果発表公演

2017.7.30日



第9回子どもオペラ学校開校

2月11日(土)、会瀬青少年の家での1泊2日の宿泊学習からスタートしました。開校式で、生徒19名、講師・ひたち市民オペラによるまちづくりの会会員等のスタッフが初顔合わせをしました。子どもオペラ学校卒業生も参加しました。自己紹介では、これから約半年間、みんなで協力して一つの作品を創っていくのだとの熱い思いが語られました。

授業は、オペラ《魔笛》のDVD鑑賞と解説、音楽稽古など盛りだくさんでした。初参加の小学生は「みんなと仲良く過ごし、お友達もできた」と喜んでいました。

配役決めオーディション

2月～3月の音楽稽古では、合唱の曲もソロの曲もたくさん練習し、先生方は、常に無理のない発声と声を大事にすることを指導されていました。

3月31日(金)、配役を決める試唱会があり、希望の役と意気込みなどの事前アンケートに従い、各自が第1、第2希望の課題曲を歌いました。わくわく感と緊張感を持ちながらもみんなしっかり歌っていました。2曲では物足りず、他の曲も歌わせて欲しいと希望するなど意欲を感じました。

後日、配役が発表され、5人のソリスト、3人の童子、合唱のメンバーが決まりました。3人の童子役は希望者が多かったため、3組9人が童子役になりました。その他、このオペラは登場人物が多いので、子どもたちは一人で何役もやることになりました。また、ザラストロ、3人の侍女、合唱には、子どもオペラ学校卒業生の5人が参加することになりました。

立ち稽古・公演に向けて

5月になり、立ち稽古が始まりました。新たに台本が渡され、たくさんのセリフが追加されました。歌いながら演技するだけでも大変です。「難しい」「覚えられない」「動作がついていかない」などと言いつつもどこか楽しそうです。回を重ねるごとに歌や演技が上達し、各自の役づくりの工夫もみられます。更に「もっと感情をさらけ出し、心をお届けするように」と演出家は言います。

きっと、面白くて楽しいだけでなく恐ろしさやドキドキ感もある素晴らしい舞台になると思います。どうぞご期待ください。

ひたち国際大道芸出演

5月13日(土)、ひたち国際大道芸の日立会場にて、成果発表公演のPR事業としてオペラ《魔笛》から1曲を披露し、チラシを配りました。当日は雨の為、アトリウムでの披露となりましたが、集まってくださった方々に前一杯演技をすることができました。子どもたちからは「緊張した」「思い通りにできなかった」「笑顔でできて良かった」などの声がありました。今回の経験・反省から、7月の公演に向けて気を引き締めることができた1日でした。(高清水/子どもオペラ学校卒業生)



子どもオペラ学校は、子どもたちを直接指導する講師のほか、まちづくりの会の様々なチームが関わり、協力しながらひとつの公演を作り上げています！

◇広報チーム

本紙「オペラネットひたち」の発行や、子どもオペラ学校の公演に向けてのギャラリー展の開催やFacebook等を利用して事業のPR活動を行っています。

◇道具製作チーム

身近にある様々な材料を利用して、時には話し合いながら、公演で使用する小道具を手づくりしています。ほかにも舞台の装飾など会場づくりも担当します。

◇衣裳製作チーム

子どもたちは、一人で何役もこなします。役の数だけ衣裳の種類と数が増えます。役に合わせ、子どもの大きさに合わせ、また、生地の違いに対応しながら衣裳づくりをしています。なんと！かつらまで全部手づくりです。

◇舞台スタッフチーム

衣裳・道具製作チームと同じく裏方チームです。公演をスムーズに進行するため、スタッフと出演者の連絡役、舞台の場面転換などを行い、舞台をつくり上げていきます。

◇サポートスタッフチーム

コンサート当日のフロント業務(もぎり、プログラム配布、花束受付、客席案内)等、来場されたお客様を温かく迎え入れおもてなしします。



世界で演じられている オペラ《魔笛》

モーツァルト最晩年のオペラ《魔笛》は、1791年ウィーンのTheater auf der Wiedenで初演されています。この劇場は台本家でもあり初演で自らパパゲーノを演じたエマヌエル・シカネーダの提供によるものですが、1801年に近くにAn der Wien劇場が開館したことにより取り壊されました。そのAn der Wien劇場の前面の歩道上にはモーツァルトの直筆のサインが、右側ミレッカーガッセ側には出演したシカネーダと3人の息子を記念するパパゲーノ門が残されています。An der Wienは現在ウィーンを代表する3つのオペラハウスのひとつになっています。

あるとき、ウィーン国立歌劇場の《魔笛》の2階正面中央最前列10ユーロに飛びつきました。開演は11時。いわゆる“Matinee(マチネ)”です。30人ほどの「貴賓室」の観客は子どもたちとそのお母さん。舞台には丸いテーブルが3つ。“想像力豊かな”私は「ああ、あの3人の女性戦士のためだな」と。ところがこれは《魔笛》公演のための事前のトークショーでした。ウィーン国立歌劇場では事前のトークショーをMatineeというそうです。地元の人でも間違えて来ます。

《魔笛》はモーツァルトのオペラの中でも大人から子どもまでもっとも人気があり、最近5年間の世界主要劇場における公演回数は3310回。ちなみに《フィガロの結婚》2483回、《ドンジョバンニ》が2299回。他の作曲家では《椿姫》4190回、《カルメン》3280回などです。(中川幸雄/ひたちオペラ合唱団)

芸術文化振興基金助成事業

考える 理解する 伝える 第9回子どもオペラ学校成果発表公演

W.A.モーツァルト作曲 ひたちオリジナル版日本語上演



2017.7.30日

開場13:00 開演14:00

日立シビックセンター音楽ホール

出演：第9回子どもオペラ学校生徒
子どもオペラ学校卒業生

指揮：松下京介

演出：馬場紀雄

演奏 ピアノ：古瀬安子、斉藤亜以子
橘 知里、湯本景子

フルート：中村優花

チケット発売中！
入場料 一般 1,000円 高校生以下 700円
(全席自由) セット券(一般+高校生以下) 1,500円

※第8回子どもオペラ学校成果発表会チケットの半券をお持ちの方は、購入の際に200円割引いたします。